

ながさき 教区報

ナガサキ・キョウクホウ



contents

定年退職・新任のご挨拶

長崎教区門徒総代・門徒幹部研修会

仏の子どもの集い

長崎教区布教団主催『口伝鈔』を読む会へのご案内

第14回 本派矯正教化連盟 福岡矯正教化支部会員研修会に参加して

九州地区真宗青年の集い 熊本大会を通して

宗務連絡事項

定年退職のご挨拶

本願寺長崎教堂前主管
長崎教区前教務所長

芝原 文雄



このたび、三月三十一日付をもちまして長崎教区教務所長・本願寺長崎教堂主管を退任し、四十二年間奉職させていただいた宗務員の職を辞することにいたしました。今後は滋賀教区犬上南組専光寺の自坊において、ご法義繁盛のため精進いたしたく存じますので、今と変わらぬ、ご教導を賜りますようお願い申し上げます。

さて、小職は二〇二〇(令和二)年四月にコロナ禍の中、北は北海道、本願寺小樽別院から南は九州、本願寺長崎教堂・長崎教区教務所に転任してまいりました。以来在職四年間公私にわたり長崎教区の皆様方との出遇いのなかで、お育ていただきましたことに、心より感謝申し上げます。

顧みますと、小職は昭和五十七年二十三歳のおり宗務所に入所させていただきました以来、伝道院に配属された後は、寺院庶務部、広報部、財務部、御影堂修復事務所、各部署を経て、北山別院副輪番、

熊本教区教務所長、首都圏センター部長、宗門長期計画対策室部長、参拝教化部長、小樽別院輪番、長崎教区教務所長の重責を拝命し、有縁の皆様のご指導、ご協力を賜り職務を全うすることができまじこと、誠に感慨の極みであります。

当時、私は宗務所採用試験の面接で「最近読んだ本で感銘を受けた書籍はありますか」と尋ねられ、「黒柳徹子さんの窓際のトットちゃんです」と答えことを記憶しておりました。そして、この本が四十二年ぶりに「続編」が出版されたことに、宗務員としての出発が同時期であったことに深い因縁を感じました。

さて、長崎教区は令和元年に「本願寺長崎教堂寺基移転五十年記念法要」を円成し、その記念事業を推進され、あらたな歩みを始められた時期でありました。さらに宗門では「親鸞聖人ご誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」の推進体制が始動する中、令和二年四月には長崎教区法要事務所を設置し、令和四年十一月八日・九日の二日間にわたり「長崎教区・長崎教堂親鸞聖人ご誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」の修行、協賛行事を営み、令和五年には本願寺で修行されるご法要に上山参拝し、尊いご勝縁を戴いたことでありました。

一方で宗門は「法要円成」に向け「宗門振興計画」の諸事業を進め機運を高める重要な時期でありましたが、度重なる自然災害の発生やコロナ危機、世界各地で起きている戦争のもと激変する時代にあつ

て、宗門の取り巻く環境はより厳しい状況のもとにもありました。

コロナ禍の影響により長らく教化活動が制限される状況が続き、お寺が淘汰される重大なきっかけになったことも事実でありました。様々な自粛や制約にがんじがらめになり、今まで当たり前であったことが、当たり前でなくなり、それにより、お寺の在り方、形骸化した法要、法座、葬儀、法事などに至るまで、今までとは違った価値観が生まれたのも事実であります。

この事実に対して、私自身六十五歳からの余生の時間を専光寺住職としての「続編」を荘厳していきたいと思います。

このたびの退職と立教開宗八〇〇年の記念の年にもう一度「学佛大悲心」という「建学の精神」に立ち返り、私が信じ、順うべきは「唯信仏語・仏のこ」とば、「唯順祖教・宗祖のみの教え」であることを継承し、真宗の興隆と護持発展に微力を尽くしてま

いりたいと存じます。本来なら教区内寺院、門信徒の皆様には拝眉のうえ、ご挨拶申し上げるべきところ略儀ながら教区報をもつて退職のご挨拶を申し述べますこと、何卒ご容赦ください。

末筆ながら、皆様のご健勝とご活躍を念じ申しあげ、これからも一層のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。御礼のご挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶



本願寺長崎教堂主管
長崎教区教務所長
邊春 真乗

四月一日付にて、本願寺長崎教堂主管並びに長崎教区教務所長を拝命いたしました、邊春真乗と申します。

この度、御地にご縁をいただきましたこと、ありがとうございます。すと共に、初めて教務所長を拝命したことに責務の重さを痛感いたしました。

前任地の本願寺堺別院以前は、長らく本願寺式務部に奉職しておりましたため、みなさまと法要儀式の素晴らしさを共有し、布教伝道を通してみ教えのありがたさに、お念仏申す日々を過ごさせていただきたいと思います。

私のモットーは「笑顔」です。法要に遇えた喜び、ご法義に触れた喜び、そして何よりみなさまと出遇えた喜びを、全開の笑顔で表現できたらと思います。

奇しくも来年は戦後八〇年という節目の年であります。広島と共に唯一の被爆地である私たち一人一人が、あらためて自身の命と向き合い、非戦平和に向けた行動を実践しなければなりません。はなはだ微力ではございますが、長崎教区の益々のお念仏繁盛と、宗門の護持発展のため精励努力いたす所存であります。

何卒よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら寸楮をもって着任のご挨拶とさせていただきます。

合掌

2024年度 本願寺長崎教堂常例法座 親鸞聖人御命日法要

本願寺派の長崎の拠点は原爆の影響などを受けながら次々と転居を余儀なくされておりましたが、1969年に諫早市に「長崎会館」として定着し、2019年には移転50年をお迎えしました。

改めて教堂の御法義繁盛の拠点としての役割を考え、これまで長崎教堂の恒例法要は報恩講（11/27-28）と全戦没者追悼法要（8/8）の2つで、宗祖の御命日には職員のお勤めのみとしておりましたが、より多くのお聴聞の場をという思いから、宗祖御命日法要を常例法座とし、教堂職員や教区布教団員の布教の場を新たに設けました。ぜひ、お聴聞にお参りください。



No.	年	月	日	曜日	時間	講師	備考
1	2024年	4月	16日	火	10:00	邊春 真乗 師 本願寺長崎教堂主管	
2	2024年	5月	16日	木	10:00	三浦 唯正 師 島原南組浄源寺住職	
3	2024年	6月	14日	金	10:00	木山 景星 師 諫早組真栄寺	
4	2024年	7月	16日	火	10:00	末永 宗平 師 佐世保組明照寺	
5	2024年	8月				※8/8平和のつどいの為、休座	
6	2024年	9月	17日	火	10:00	福田 宏城 師 諫早組草尾寺	※9/13仏婦入門講座、9/16敬老の日の為
7	2024年	10月	16日	水	15:00	木山 真英 師 諫早組真栄寺住職	教区仏社連盟と合同修行
8	2024年	11月				※11/27-28教堂報恩講の為、休座	
9	2024年	12月	16日	月	10:00	※教堂職員から	
10	2025年	1月				※御本山御正忌報恩講の為、休座	
11	2025年	2月	14日	金	10:00	野口 哲城 師 諫早組正源寺	
12	2025年	3月	14日	金	10:00	※教堂職員から	

長崎教区門徒総代・門徒幹部研修会

行信教区校長／本願寺派布教使／

大阪教区東住吉組西光寺住職

天岸 浄圓

先日、長崎教区の門徒総代・門徒幹部の方々の研修会のご縁を恵まれてお話をさせていただきました。その時の概要を記させていただきます。

門徒総代・門徒幹部の方々は、ご法義の繁盛と寺院興隆のための運営について、さまざまに研修されていると思いますが、今回は基

本に立ち返って、仏法聴聞とはどのようなことをか改めて考えていただきたいとお話を進めました。そのために中国の善導大師の「二河白道の譬喩」を手がかりとさせていただきます。この譬喩はお聴聞で耳にされた方も多いと思いますが、概要を少し紹介します。

人が西方を目指して歩みはじめます。すると突然と目の前に「火の河」と「水の河」があらわれて行く手をさえぎりました。ただ、二河の中間に道幅四五寸程の白道が通じていました。しかし、道は炎に炙られ、水波におおわれて、西まで安全に往けるとは考えられません。しかも群賊や悪獣がジワジワと接近していると気づきました。恐れて西方に進もうとしても二河が行く手を阻んでいます。還ることも、止まることも、進むことも、



どの道を選んでも西への到達は不可能としか思われません。でも人は道があるから、この道を進もうと決意します。その時、東の岸に声をかけてくれる人がいました。「あなたはその道を進みなさい。決して死ぬことはありません。それよりも止まっています。必ず死んでしまいます」。同時に西方からも声が響きました。「あなたは一心にこの道を念じて真つ直ぐに進みなさい。私が必ず護り抜きます。火にも水にも墜ちることはありません」と聞こえました。人はこの声に順って、白道をわたり無事に西

の岸に着くことができました。という内容です。

「西」は浄土を、「水火二河」は私たちの欲と怒りの煩惱を、「群賊・悪獣」は迫り来る寿命の終わりを、「東岸の声」は釈尊の勧めを、「西岸の声」は阿彌陀佛の本願を、「白道」は阿彌陀佛の本願の念仏をあらわします。本願力によって煩惱をかかえた私たちが必ず浄土に往生できると信心を勧める譬喩です。

誌面で譬喩の内容を詳細に説明はできませんが、私がこだわりますのは、原文は「たとへば、人ありて西に向かいて行かんとするに」とはじまります。この「人」についてです。私たちは既に西に向かっていると思込んでいませんか。その前に「人」といわれた内容を考えねばと思います。浄土真宗の方なら「西」が浄土、阿彌陀佛をあらわすと容易に理解できるはずですが、しかし、心から浄土を願ひ、仏さまを敬つておられるでしょうか。

そこで文章を「人」で区切って考える必要があると思うのです。すべての人が「西」に向かうとは言えません。また人は生まれた時から信仰心を持つてはいません。

ただ日本では江戸時代の宗教政策によって宗旨替えはいけなくと考えられ、現代でも多くの方が先祖代々何々宗の門徒、檀家と称しておられます。ですから、その宗旨の家に生まれた方は無意識のうちにその宗旨の門徒、檀家と思つておられるようです。しかし、伝統としての門徒、檀家と信者とを同じと言えのでしょうか。改めて宗教を信仰するとはどのようなことを考えねばと思うのです。まじめに浄土を願ひ、仏さまを敬つておられますか。

宗教を考えるについて、ご門徒なら「帰敬式（お剃刀）を受けられた方が多い」と思います。その時「南無帰依仏、南無帰依法、南無帰依僧」と「三帰依」を称えられたはずですが、この意

味は「私は生涯、仏さまと、その教えを依りどころとし、信者としての自覚と責任を持つて生きます」と言われたのです。ここに宗教の本質が示されています。宗教とは自分の人生における判断基準（正しい判断の依りどころ）を確立することなのです。

私たちは一般に自身の経験を判断の依りどころとしますから、どうしても自己中心となります。その自分中心的な生き方がよりスムーズに運ぶためには経済力（お金）が必要です。そこで自分の都合とお金の有る無しが判断の基準となります。人びとは無宗教と言いますが、宗教の本質から言えば、これが現代日本で最も多くの人が帰依している宗教なのです。

この現実の中で仏さまを依りどころとして生きることは、どのようなことでしょうか。私たちは解つたこととして「仏さま」と呼んでいます。本当に解つていますか。仏さまを一言であらわすと「慈悲」となります。「慈」は他者に対する無償の愛を、「悲」は他者の苦への共感を意味します。他人を悲しめ、苦しめないことです。「仏さま」とは自己中心の私に対して、自分と同様に他者を尊重する生き方をあらわされています。

世界各地に戦争、紛争、テロがつづき、自然災害に多くの人びとが苦しむ中で、私たちが心から仏さまを拝んでいるか、その自覚があるかを再認識すべきではと考えてお話をいたしました。



仏の子どもの集い

長崎教区仏教少年連盟委員長

瑞穂 恒河
(島原北組圓福寺)



令和五年十二月二十三日
「仏の子どもの集い」が、本願寺長崎教堂にて開催されました。コロナ禍において三年間、開催することが叶いませんでしたが、今年度は無事に開催の運びとなりました。

も達が打ち解けられるようなゲームの時間をとりました。様々なゲームに子ども達も夢中になっていましたが、特に動きと逆の方向を叫びながら前後左右に動くゲームでは子どもたちは「難しカー」と言

三年間とだいぶ期間も空いたので、一体どれだけの子どもたちが集まってくれたら心配もしてあげましたが、当日は約六十名もの子どもたちが集まってくれ、教室には子ども達の元気な声が響きわたっていました。

当日はみんなでお勤めしたのち芝原教務所長よりご挨拶を賜り、四年ぶりの開催の喜びと、子ども達への思いをお話ししていただきました。そして開会式の後、レクレーションの時間にまず子ども

いながらも大盛り上がりしてました。ゲームで盛り上がった後は長崎教区少年連盟で準備してきた人形劇、「仏のころ」を観劇してもらいました。脚本、人形、舞台、すべてゼロから作り上げた劇でありましたが、子どもたちの人形劇を観る真剣なまなざしを見て、連盟役員をはじめ協力してくださった皆様の苦勞が報われた思いでした。

昼食を食べた後はのんの温水センターに移動し、温水プールで目一杯遊泳を楽しみました。冬に流れるプールやウォータースライダーで遊べるという珍しいさもあり、子どもたちは時間いっぱいまで泳ぎ続けていました。最後まで事故や怪我も無く、笑顔の子



どもたちを見送って「仏の子どもの集い」が終了しました。

「仏の子どもの集い」では毎年様々なレクレーションを準備しています。その中で今年度はなぜ人形劇をする事になったのかと申しますと、コロナの自粛期間中の役員会で子ども達の前で何か出来るようになりたい、例えば人形劇を自分たちでしてみたらどうだろうかと意見をいただきました。その意見に皆が賛同し、そこから約二カ年度をかけて人形劇事業に取り組み始めました。具体的には昨年度の少年教化指導者研修会で人形説き師の安藤秀明先生をお招きし、実演を通して人形の扱い方を教えていただいたり、舞台の設置の仕方、人形や小道具の作成の一例など実際に人

形劇を行うための沢山の山を乗り越えていただきました。

何より感銘を受けたのはどんな形でも良いのでまずはやってみる事が大切であるというお言葉であります。そして「仏の子どもの集い」での人形劇の発表という目標を掲げ、約一年の準備期間を経て当日の発表を迎えることができました。諸先輩方が始めてくださった「仏の子どもの集い」では過去にも様々なレクレーションがあったそうです。そうして子どもたちに仏様の前で楽しい時間を過ごしてもらおうという活動を続けてこられました。そうした先輩方のご苦勞を思いながら今後も少年教化活動に勤めていきたいと思っております。



長崎教区布教団主催

『口伝鈔』を読む会へのご案内

長崎教区布教団副団長

緒方 正親

(諫早組桃原寺)

この度、長崎教区布教団では、親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗八〇〇年を機縁として、あらためて宗祖聖人の御生涯とみ教えを学び、布教伝道に生かすべく勉強会を開催することになりました。宗祖の御生涯が著述された数多くの聖教のうちから、今回は『口伝鈔』を学ぶことといたしました。

今から六九三年前の元弘元年（一二三二）、本願寺第三代宗主である覚如上人は、親鸞聖人七十回忌となる御正忌報恩講で七昼夜に亘り二十一座に及ぶ法話をなされました。この法話を所望した門弟である乗専が筆録したものが『口伝鈔』です。これら二十一章の法話には、善鸞大徳の長男である如信上人、『歎異抄』の著者とされる唯円大徳、そして恵信尼公のお手紙などから受け継がれた親鸞聖人の出来事とご法義が含まれています。

その一つに「一切経御校合の事」というエピソードがあります。一二三五年、鎌倉幕府第三代執権北条泰時により一切経の校訂に招聘された六十三才の親鸞聖人と、後に五代執権北条時頼となる開寿九才との物語です。

校合作業の慰労として設けられた「孟酌・魚鳥の肉味」を伴う宴席において、他の僧侶が袈裟を脱がれたのに対し、親鸞聖人は袈裟を着用したままで食事に臨まれました。そのことを不審に思い尋ねる開寿に、宗祖は「あまりのご馳走に慌ててつい脱ぎ忘れた」と答えられました。開寿はその嘘を見抜き、自分が幼稚だから本当の事を仰らないのだと落胆しました。

それからしばらくして、同じような宴席でも宗祖は袈裟を着用したままお魚を食べられました。再び幼き開寿に同じ質問をされ、宗祖も「また袈裟を脱ぐのを忘れました」と、はぐらかそうとされましたが、今度ばかりは開寿も食い下がり、「そんなに忘れてしまわれるはずはない。私を幼く理解ができないと思わないで、本当の事を教えてください。」と要求されました。

宗祖は、不殺生戒を破ることの申し訳なき、末法時代の我々僧侶は世俗の人々と同じであること、この生き物たちを救う力は私にはなく、したがって袈裟の功徳をもつ

て救い利益を与えたいと願っているから袈裟着用のままである旨を答えられました。幼き開寿は、親鸞聖人のお言葉を深く理解し喜ばれました。後の執権となり天下を治めるほどの才能は、幼少よりその兆しがあるものだと宗祖は感心されたことと結ばれています。

この頃の時代を、一昨年放送されたNHKの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を参考にしてみます。このエピソードの主人公九才の開寿は、小栗旬さんが演じた第二代執権、北条義時の曾孫、そして坂口健太郎さんが演じた第三代執権、北条泰時の孫にあたります。

親鸞聖人は第二代義時より十才年下、第三代泰時より十才年上という年齢差関係になります。

宗祖が御本典後序で厳しく批判した後鳥羽上皇によって死罪流罪となった承元の法難（一二〇七）は、宗祖三十四才、義時四十四才、泰時二十四才の時でした。その十四年後の承久の乱（一二二二）で、義時五十八才、泰時三十八才親子により、後鳥羽上皇は隠岐へ配流になり、その地で生涯を終えます。この時、関東におられた宗祖は四十八才でした。

下って六十三才とられた宗祖は、幼き開寿を前に、承元の法難で生き別れとなった法然上人のこと、法然門下を断罪し後に自らも失脚した後鳥羽上皇のこと、それらにつながる北条執権家の招聘による一切経校合に関わっていることを感慨深く回想されたに違いありません。覚如上人が書かれた口伝鈔は、法然上人・親鸞聖人・如信上人と続く三代伝持の法門、本願寺の正統性と優位性の主張、真宗教義の中核が信心正因称名報恩であることを明らかにされたものですが、その一方でさまざまなエピソードが詰まった魅力的なお聖教です。

これからこの『口伝鈔』を、龍谷大学客員研究員で長崎組發心寺御住職、三栗章夫師をご講師にお迎えして味わい深く学んで参りましょう。皆さんご参加を心よりお待ちしております。





第十四回 本派矯正教化連盟 福岡矯正教化支部会員研修会に参加して

本派矯正教化連盟長崎支部代表 永井三樹丸
(諫早組念寺)

本年二月一日から一泊二日の日程で熊本教区教務所において支部会員研修が開催され教区より芝原支部長(教務所長)他七名が参加した。本派教誨の長い歴史を受け総合テーマに『本派教誨の伝統・今何を実践すべきか』テーマ『渡辺普相に聞く』のもと、講師にノンフィクション作家堀川恵子氏を迎え沖縄を含む九州地区支部会員と共に堀川氏が本派教誨師渡辺普相氏の取材を通じて得た堀川氏の死刑囚と死刑制度についての講話を受けた。講話の中で五〇年もの間死刑囚との対話を重ね死刑執行に立ち会い続けた故渡辺教誨師の言葉として本人が死刑執行されても幸せになった人間はだれ一人もいませんという言葉を紹介されたがこの言葉の中にも本派教誨の大きな伝統と意義が込められているように思えました。本派教誨の歴史は国に先駆けて明治六年に始まると聞かされています。多くの先達者の方々の苦悩と、実践の中に今日の教誨活動があることを知らされました。現在、教区内には十名の方が長崎刑務所教誨師会に所属し教誨師として活動して頂いています。今回の支部会員研修会に参加して私の所属する施設では死刑囚の方は居ませんが私は死刑制度のある国に生きているわけであり私の知らないところでその任にある人が人の命を合法という中で殺していることを今まで以上に深く知らされました。現行として存在する死刑制度について我々教誨師一人ひとりが日々の教誨活動の中で研鑽を深めてゆく事が大切であると思えました。堀川恵子著『教誨師』は正しく死刑制度という言葉だけで殆ど事実を知らず生きている私に渡辺普相教誨師が遺言書として堀川氏を通じて届けていただいたように思います。今回の研修で同じ場にいる仲間と出会えたことに深く感謝いたします。

合掌

九州地区真宗青年の集い 熊本大会を通して

長崎教区仏教青連盟役員 加藤 大城
(長崎西組念寺)

十一月の十八、十九日の二日間、熊本の阿蘇で行われた真宗青年の集いに参加して私を感じたこと

今回行われた大会のテーマが『よりよい地震・水害からの復興』というところで実際に地震の被害にあわれた数鹿流崩之碑を見学し、地震による土砂崩れの恐ろしさを痛感し人間の無力さ、自然の驚異を改めて学ぶことができた。その後は場所を移動して震災ミュージアムKIIOKU、旧東海大学1号館も見学し、震災当時のまま残されている地震によりできた断層も実際に目で見て学ぶことができた。

その後は会場に戻り、実際に地震の被害にあわれ、その体験を伝えてくださった大和卓也氏による講演だった。大和氏はご自身も被災され、ご息子を土砂崩れで亡くしており、その体験を思いだして口にするのも辛いはずだが、それでも震災の驚異を風化させないために色々なことをお話ししてくださった。ご息も地震の後に山の上に住んでいる友人宅を訪れた帰りに車ごと土砂崩れに巻き込まれたらしいのだが、土砂と断層による状況でなかなか搜索活動が進まず月日が流れた、しかし大和ご夫婦は諦めずに搜索し、彼のご友人も搜索活動を手伝ってくれ、ようやくご息子を発見できたのはしばらく後のことだったようだ。

今回の研修の中で私が一番印象に残っているのは、大和氏の講演が終わった後の参加者からの質疑応答の時間で「私たちが支援できることはあるか?」の問いに対して大和ご夫妻は(その気持ちだけで嬉しい、そして身近にいる大切な人達との別れはいつくるのか分からないのだからその事を今一度考えて大切にしたい)と述べられたことだ。

そして二日目は熊本出身の元プロサッカー選手巻誠一郎氏による講演だった。巻氏はご自身も被災したが、仲間たちと支援団体を立ち上げ、SNSなども活用し被災地の現況も発信したり、子どもたちへのサッカースクール事業や災害復興支援活動など大和氏とは違う角度から被災地への支援を行っている。

今回の大会を通して、改めて地震の恐ろしさ、災害に対する備え、日ごろからの意識の持ち方などを改めて認識した。そして僧侶として被災された方々にどういった配慮ができるのか、なにができるのだろうかということを考える大会にもなった。

2024(令和6)年度行事予定

教堂・教区行事

- 平和のつどい
2024(令和6)年8月8日(木)
- 得度講習会・得度考査
2024(令和6)年9月26日(木)～27日(金)

仏教婦人連盟

- 仏婦総会【南風楼】
2024年(令和6)年6月18日(火)～19日(水)
- 仏婦入門講座
2024(令和6)年7月19日(金)
2024(令和6)年9月13日(金)

保育連盟

- 第48回保育講座【伊王島】
2024(令和6)年6月22日(土)～23日(日)

布教団

- 『口伝鈔』を読む会
2024(令和6)年7月10日(水)

九州行事

- 九州地区スカウト指導者会研修会【熊本教区】
2024(令和6)年6月22日(土)
- 第5連区門徒推進員実践運動研修会【長崎教区・沖縄特区】
2024(令和6)年6月26日(水)～27日(木)
- 6ブロック保育九州大会【福岡教区】
2024(令和6)年8月23日(金)～24日(土)
- 九州組長研修会【宮崎教区】
2024(令和6)年9月10日(火)～11日(水)



住職おめでとうございます。
(六月六日現在)

諫東組 金光寺
前住職 大峰 信仁 様
新任職 大峰 信祥 様
二〇二二(令和五)年十月一日就任
二〇二二(令和五)年十月一日就任

住職継職

長崎西組 金徳寺 前坊守
水上 俊子 様(九十四歳)
二〇二四(令和六)年一月二十九日往生
佐世保組 聞蔵寺 前住職
甲斐 眞良 様(八十八歳)
二〇二四(令和六)年一月十九日往生
(六月六日現在)

編集・発行

「御同朋の社会をめざす運動
(実践運動)」
長崎教区委員会
記事についてのご意見、
ご要望、送付部数のご希望
は長崎教区教務所まで。



教区 H.P.
QR コード

新任の挨拶



木山 広勝

の度、自坊に戻ってまいりました。
呆然と過ごしてきたつもりでしたが、よくよく振り返れば、ご法義と関わってきた方々のお育ての中であった実感が段々と心に染み始めた今日この頃でございます。今後も、み教えとお育ての中で奉職させていただきます。まだまだ若輩浅学の身でございます上に、職員の木山姓が二人になり、皆さまにはお手数をお掛けいたしますが、今後のご指導ご鞭撻よろしくお願ひ申し上げます。
合掌

二〇二四(令和六)年四月一日
づけで臨時職員として奉職させていただきます。諫早組善定寺衆徒の木山広勝と申します。
昨年度まで、龍谷大学、行信教校、伝道院等でふらふらと十年ほど勉強させていただきましたが、こ

仏前結婚式(諫早組西明寺) おめでとうございます



新郎 町田唯真さん

新婦 曾我穂波さん

敬弔

生前の御苦勞を偲び、謹んで
お悔やみ申しあげます。

長崎組 清光寺 門徒
梅野 勝助 様(九〇歳)
二〇二二(令和五)年十月十七日往生
島原北組 法性寺 前坊守
渡辺 砂代子 様(九十二歳)
二〇二二(令和五)年十月二〇日往生
長崎組 深崇寺 前坊守
加藤 憲子 様(八十七歳)
二〇二二(令和五)年十一月十五日往生
島原西組 蓮正寺 衆徒
藤尾 素一 様(七十九歳)
二〇二二(令和五)年十一月二十七日往生
長崎組 光源寺 衆徒
福永 洋一 様(八十一歳)
二〇二二(令和五)年十二月六日往生
佐世保組 教法寺 前坊守
和田 文子 様(八十六歳)
二〇二二(令和五)年十二月九日往生